

第1回 沼津港振興基本計画策定委員会 議事概要

日 時：平成26年12月1日（月）午前14時00分～午後16時00分

場 所：プラサ ヴェルテ 401 会議室

出席者：

静岡県立大学学長 木苗 直秀

東海大学海洋学部環境社会学科教授 東 恵子

常葉大学経営学部経営学科教授 大久保 あかね

静岡県交通基盤部港湾局長 西園 勝秀（副知事代理）

沼津市副市長 井原 三千雄

※横浜国立大学 高見沢教授は欠席

事務局：静岡県交通基盤部港湾局港湾企画課

配布資料：

- ・次第
 - ・委員名簿
 - ・座席表
 - ・策定委員会設置要綱
 - ・沼津港振興基本計画について(依頼)
 - ・沼津港振興基本計画策定委員会(説明資料)
 - ・沼津港振興基本計画策定委員会(参考資料編)
-

1. 挨拶（西園港湾局長）

- ・ 沼津港は年間145万人訪れる屈指の観光港である。その中で、定期航路の廃止による交通の変化、東日本大震災を受けての防災面の見直し等の社会情勢の変化から沼津港を今後どのようにしていくかが課題である。
- ・ 沼津港の優れた環境を生かした統一的な景観、水域のあり方等を検討していきたい。

2. 委員紹介

- ・ 委員を順次紹介。

3. 委員長の選任

- ・ 東委員の推薦により木苗委員を委員長に選出。

4. 委員長挨拶

(木苗)

- ・ 現在、静岡に 23 大学あり、大学生が 4 万人近くいるがその学生が集う場所がない。東京や関西からも若者を呼び込めるような検討をしていきたい。

5. 審議事項（沼津港の新たな将来像）

①「これまでの経緯」、「会議の目的」について

- ・ 配布資料「沼津港振興基本計画策定委員会(説明資料)」P. 2～5 を説明（事務局）。

(木苗)

- ・ 2020 年の東京オリンピック等で海外の方も来られる。そういう人たちが集う場として、古い家屋をリフォームして利用するような考えもある。
- ・ 委員会に若い人たちに参加してもらい意見をもらう。若い力の導入で良いアイデアが生まれるのではないか。

(西園)

- ・ 事務局説明を補足すると、H23～26 年度までに、WS を 6 回実施。旅客ターミナルの場所を含めた内港水域の利用の方向性の理解が得られなかったため、なかなか施策まで進めなかった。

(東)

- ・ WS に参加いただいた方々の沼津港の将来像への方向性は同じであったが、利活用において利害調整がうまくいかなかった。
- ・ 沼津港は景観重点地区に指定されており、周辺企業の方々にも理解がある。

(大久保)

- ・ 人の流れの変化があり、質・量ともに変化して活性化はみられると思う。
- ・ 普通に食事に来たときには気が付かなかったが、意識してみると景観に統一感はありません感じられず、歩行者の動線が切れていて危なく感じた。
- ・ 狩野川の堤防に上がり、我入道の景観をみて、多様な楽しみ方を提示できると感じた。
- ・ 今後の開発の方向性として、今ある港の機能を妨げないことが重要であると思う。

(井原)

- ・ 今の沼津港の賑わいは、過去開催していた海神祭で、普段は土日閉店している周辺のお店を開けてもらったことから始まった。
- ・ 中心市街地である沼津駅周辺と沼津港の賑わいを一体的なものにしたい。

(東)

- ・ WS では港の景観を生かすために回遊性が重要であるという議論から空中回廊や堤防の上を歩く等の議論が進められてきたが、一部当初と異なる整備がなされ残念に思う。
- ・ 今回の委員会では、WS の思いも含めて反映させていきたい。

(木苗)

- ・ 観光客のターゲットははっきりしなくてはならない。県内の人なのか、県外の人なのか。

(沼津市)

- ・ 145 万人の来訪者の内訳は県内が 1/3、県外が 2/3 弱で、関西は少なく、首都圏からの来訪者が多い。

(木苗)

- ・ 沼津港という「点」ではなく、沼津港周辺の資源を含めた「線」で考えると非常に多くの財産がこの沼津港周辺には存在する。
- ・ 10～20 年後、沼津港に従事されている方々（漁師の方々等）は継続できるのか。昔より人数が減ったように感じた。
- ・ 観光客だけでなく、地域の方がどう考えているのかを知りたい。地域の人が離れてしまうような計画ではいけない。

②「沼津港の魅力」、「沼津港の進むべき方向性、将来像」「有識者会議要旨」について

- ・ 配布資料「沼津港振興基本計画策定委員会(説明資料)」P. 6～33 を説明（事務局）。

(木苗)

- ・ 沼津市の国内の姉妹都市はあるのか。

(沼津市)

- ・ 姉妹都市ではないが、長野県の上田市とは交流がある。

(木苗)

- ・ 他の地域、国との連携を考えることが大事で、まずは少しずつつなげていくこと。沼津だけでなく、下田港とかも含めて、伊豆全体、静岡全体で考える。沼津-静岡-日本と展開していけば、海外ともうまくつなげることができマーケティングが広がっていく。
- ・ 自転車道もあるようなので、自転車を活用するとよい。
- ・ リピーターがどれぐらいいるのか。年一回来る人がどのくらいいるのか。分析する必要がある。

- ・ 例えば河津のバガデル公園のように自分の庭を作ってもらって、年に一回は来てもらうような仕掛けをすると良い。

(東)

- ・ 沼津港の一番強みは、水産業の営み（セリ等）が見られること。
- ・ 千本松原等、風土からたくさんの芸術作品が生まれたことも強みである。
- ・ 「びゅうお」、「イーノ」を前面に押し出してよい。

(大久保)

- ・ 資料にあげられている強みが少ない。もっとあるはず。
- ・ 狩野川の水の豊かさ、商業の発展による伊豆の玄関口、商都というのが沼津の印象である。強みにあげてほしい。
- ・ 沼津港を伊豆全体の中心として考える必要がある。
- ・ 外国人好みの資源も数多くあると思う。もっと外国語の対応が必要では。

(西園)

- ・ 今ある強みがオンリーワンであるかがポイントである。

(木苗)

- ・ 現在の沼津港は何点という評価で、何点まで上げる必要があるかで議論が変わってくる。現状をしっかりと評価する必要がある。

(西園)

- ・ 今ある沼津港の 100 点を出しながら、20 年先の沼津港を描いていきたい。

(東)

- ・ 20 年後の物流の変化、施設配置、街路配置はどのように予測されているか。

(西園)

- ・ 現在の内港の物流機能を外港に移し、内港を高質な水辺空間にし、初めて来られる方に対して、食事をしながら沼津港の景観を知らせ、次回につながる空間を考えている。
- ・ 人工的な防潮堤についても、景観対策を考えていきたい。
- ・ 港八十三番地や市場の賑わいは最重要である。

(木苗)

- ・ 傍聴している方々にも意見を聞きたい。

(牧水記念館 林理事長※有識者会議委員)

- ・ 港の賑わいを街の賑わいとして広げたい。
- ・ 駅北側は最近開発が進んでいるが、南側の賑わいがないと感じる。
- ・ 西伊豆航路は沼津の賑わいに寄与していた。

(沼津魚市場 佐藤社長)

- ・ P. 28 の沼津港の弱みについて、「沼津市民の来訪が少ない」とあるが、昔はそうであったが今は変わってきている。「情報発信力の不足」とあるが、現在沼津港はマスコミに最も出ている港である。沼津港には深海魚をとって、見て、食べるまでのストーリーがある。
- ・ P. 28 の沼津港の脅威について、「西伊豆航路の撤退」は交通手段の変化によるもので驚異ではない。「伊豆縦貫道による沼津のスキップされる可能性」は影響がみられない。「少子高齢化による客層の変化」は、水族館によって逆に若い世代が増えた。
- ・ 沼津港に店を出している方々には、皆をお客さんと思う精神が無いからまとまらない。まとまらないのは残念。

(東)

- ・ 資料として、動線や景観の課題を整理した図面を出していただきたい。
- ・ 沼津の海岸沿いは新たな世代の楽しみとなるマリンスポーツ等の可能性がある。様々なライフスタイルに対応できる新しいエリアをあげていただきたい。

(大久保)

- ・ 沼津港の内部環境（漁師の方々）のデータがあれば提示をお願いする。漁業従事者や市場で働く方の年齢層や居住地等のデータがあればほしい。
- ・ ツアーバスで来る人は、食事をするだけで、次にまた来ることは基本的に無いのでツアーバスではなく自分の意思できている人のリピート率を知りたい。
- ・ 既存の観光の統計でリピート率のわかる資料があれば提示をお願いする。沼津港前後の行動や何故きたか等でもわかるかも。

(木苗)

- ・ 地元の方々と一緒にやっていきたい。

④今後の予定について（事務局）

- ・ 配布資料「沼津港の将来を考える有識者会議（説明資料）」P. 34 を説明（事務局）。

(事務局)

- ・ 本日提示指示があった資料については次回委員会までに委員に提供する。

- ・ 次回は沼津港で頑張っている方々からの意見聴衆を考えている。

7. 閉会